

株式会社ヤマザキ 2020年3月期
決算説明資料

2020年6月

6147

YAMAZAKI CO.,LTD



目次

- (1) 株式会社ヤマザキとは 3
- (2) 2020年3月期の業績・財務情報 7
- (3) 市場動向・業績予想・戦略 18
- (4) 社会的課題に挑む多角化事業 23

(1) 株式会社ヤマザキとは

創業・創立

創業 1946年3月1日

創立 1960年9月1日

沿革

- 1946年 山崎好夫が浜松市寺島町に山崎鉄工所として創業、楽器部品及び専用機・治工具の製造を開始
- 1954年 浜松市浅田町に移転しオートバイ部品の受注を開始
- 1960年 法人組織に改組し株式会社山崎鉄工所を設立
- 1964年 浜松市有玉北町(現在地)に移転し事業拡大を図る
- 1968年 ドリルユニットをはじめとする省力化機器の製造販売を開始
- 1972年 商号を株式会社ヤマザキに変更
- 1987年 第13回発明大賞功労賞を受賞
- 1990年 設立30周年。資本金9億5,840万円に増資し株式の店頭登録 (現JASDAQ,証券コード番号6147)
- 1991年 本社新社屋完成
- 1992年 都田テクノポリス内にテクニカルセンター完成
- 2000年 ホーニング部門を新設
- 2003年 浜名湖浄化技術発掘事業に参加
- 2004年 ベトナムに現地法人YAMAZAKI TECHNICAL VIETNAM CO.,LTD.を設立
- 2004年 ジャスダックに上場
- 2020年 九州営業所(福岡県京都郡)を設置

事業内容

- ◆省力関連機器製造販売 (FMSユニット・インデックステーブル・スピンドルユニット・多軸ヘッド・タレットヘッド・ドリルユニット・タップユニット・その他)
- ◆専用工作機械、マシニング、ホーニングマシンの製造販売
- ◆電子機器の製造販売
- ◆オートバイ部品の製造

主要取引先

アイシン・グループ／株式会社IJTT／愛知機械工業株式会社／株式会社アツミテック／いすゞ自動車株式会社／カワダ株式会社／株式会社クボタ／京浜精密工業株式会社／上海日立電器有限公司／GKNドライブラインジャパン株式会社／ジヤトコ株式会社／スズキ株式会社／株式会社SUBARU／ダイハツ工業株式会社／株式会社椿本チエイン／株式会社デンソー／トヨタ自動車株式会社／トヨタ自動車九州株式会社／日産自動車株式会社／日本電産トーソク株式会社／浜松ホトニクス株式会社／パナソニック株式会社／日野自動車株式会社／PT Astra Honda Motor／本田技研工業株式会社／本田金属技術株式会社／マツダ株式会社／株式会社ミクニ／三井精機工業株式会社／三菱自動車工業株式会社／三菱重工業株式会社／株式会社山田製作所／ヤマハ発動機株式会社／UDトラックス株式会社

経営方針

◆「お客様に寄り添い、世界中で必要とされることで企業価値を発展させ、社員の幸福や社会への貢献」を目指すべき企業ビジョンとしております。

◆常に製造業の新たな動向に対応する戦略を遂行し、生産システムを改革

- ①川上である製品開発の強化
- ②川下である在庫管理の強化
- ③生産設備を業態や製品特徴に合わせて最適化

◆最優先事項は、「お客様の生産設備の最適化」

- ・異なる選択要素をうまく組み合わせ、目的達成のために最も適切な設備を構築
- ・マスプロダクトによる効率化と多品種少量生産による高付加価値化という2つの相反する選択要素について、前者には自動化・省人化を高度に追求したシステムを、後者には個別ニーズに細かく対応できるフレキシブルなシステムで対応
- ・マスプロダクトによる効率化に貢献する専用工作機械に加えて、個別ニーズに細かく対応できる汎用性の高いユニットを常に500種類以上整備し、顧客企業に「生産設備の最適化」を積極的に提案



(2) 2020年3月期の 業績・財務状況

決算概要

| | 2019年3月期 | 2020年3月期 | | | | | |
|---------------|----------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 通期 | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 通期 | 前期比増減 |
| (百万円) | | | | | | | |
| 売上高 | 3,372 | 661 | 824 | 688 | 1,490 | 3,666 | 109% |
| 営業利益 | 297 | 28 | △24 | 2 | 122 | 129 | △43% |
| 経常利益 | 284 | 31 | △30 | 2 | 123 | 126 | △44% |
| 親会社株主に帰属する純利益 | 218 | 29 | △23 | 0 | 78 | 85 | △39% |
| 配当(¥) | ¥5 | | | | | ¥10 | |

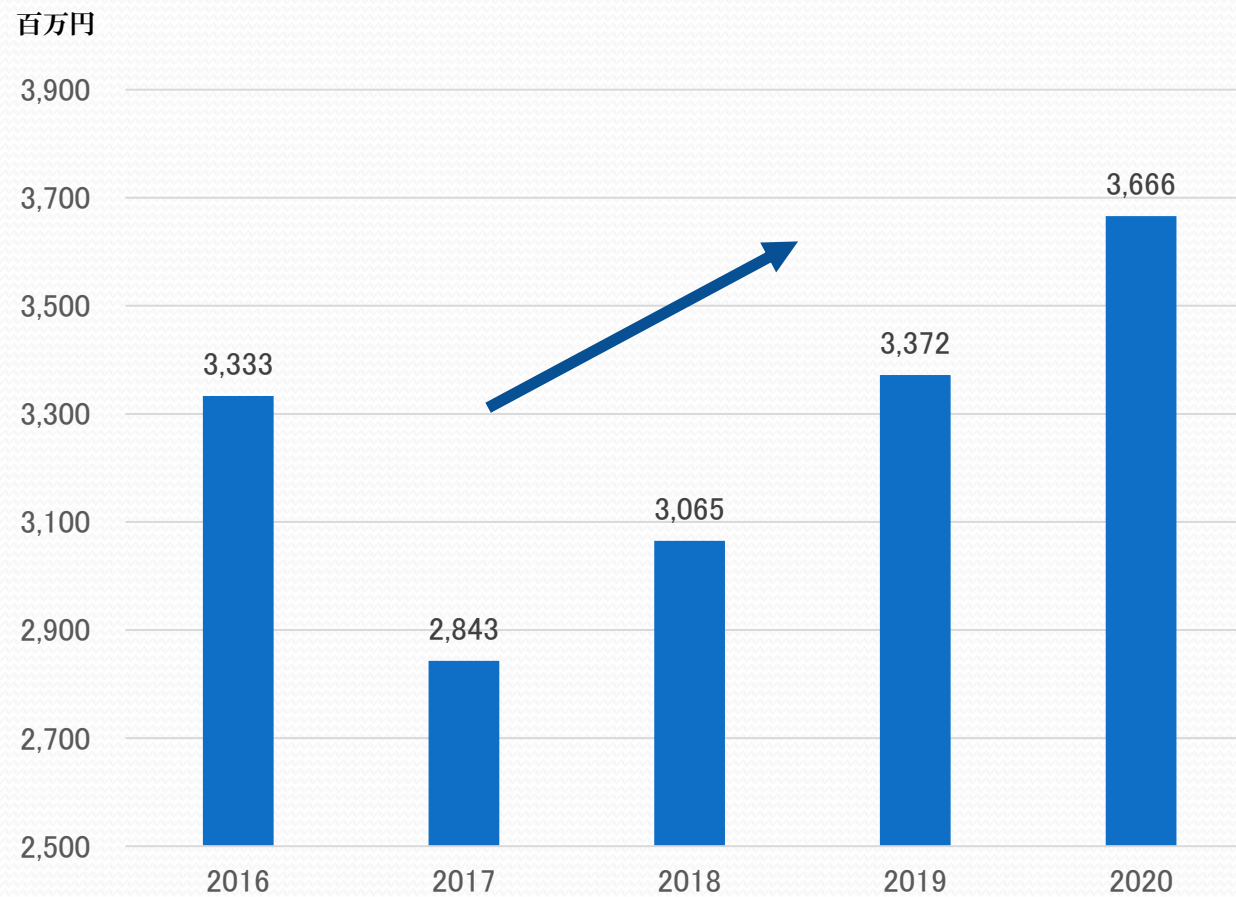
- ◆売上高は、自動車等の経営環境の好調を背景に提案型営業を展開した工作機械事業の好調を主因に、前期比109%を達成
- ◆大型案件の集中による追加的な人件費等が発生したことにより、利益は減少
- ◆2019年3月期¥5.00の配当を、2020年3月期は¥10.00に倍増

収益の推移

| (百万円) | 2016年3月期 | 2017年3月期 | 2018年3月期 | 2019年3月期 | 2020年3月期 |
|-----------------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 売上高 | 3,333 | 2,843 | 3,065 | 3,372 | 3,666 |
| 営業利益 | 198 | 81 | 89 | 297 | 129 |
| 営業利益率 | 5.9% | 2.8% | 2.9% | 8.8% | 3.5% |
| 経常利益 | 134 | 37 | 73 | 284 | 126 |
| 親会社株主に 帰属する 純利益 | 84 | 23 | 46 | 218 | 85 |

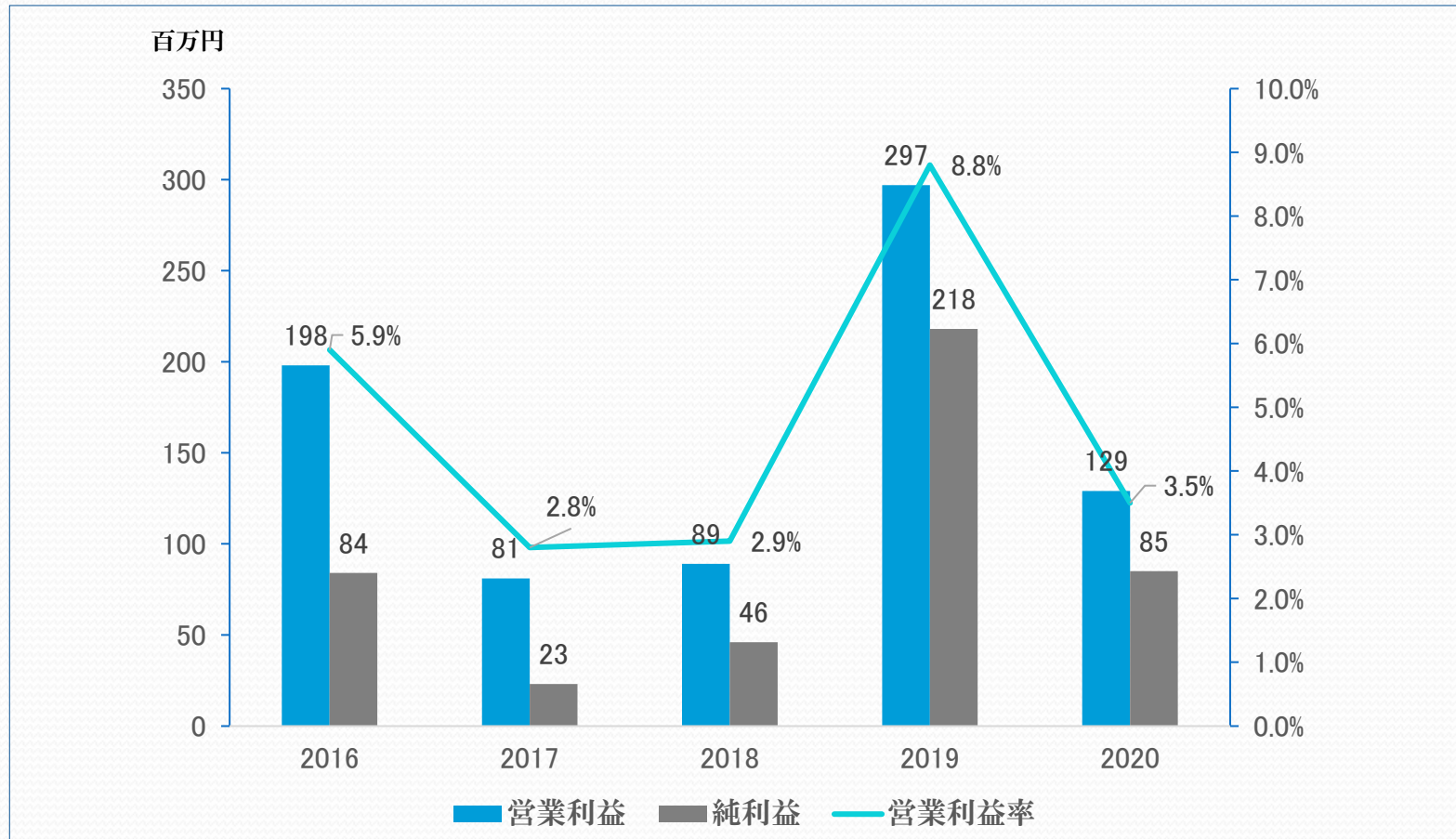
- ◆ 工作機械事業における提案型営業が結実し、増加基調を継続
- ◆ 原価低減など業務効率化も進んでおり、安定した営業利益を計上

売上高の推移



2017年以降、専用工作機械の販売が増加したため、売上高は増加傾向

収益の推移



大型案件の集中による人件費等の増加により、営業利益率は減少した

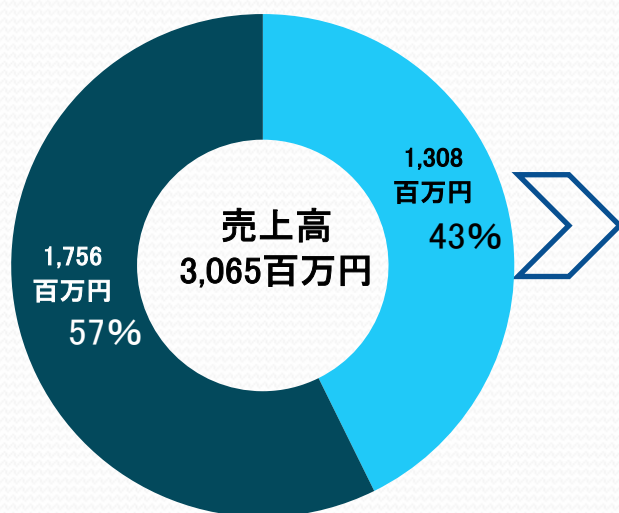
セグメント別業績推移

| | (百万円・%) | 2016年3月期 | 2017年3月期 | 2018年3月期 | 2019年3月期 | 2020年3月期 |
|----------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 工作機械事業 | 売上高 | 2,003 | 1,489 | 1,756 | 2,174 | 2,541 |
| | セグメント利益 | 157 | 0.2 | 18 | 240 | 104 |
| | セグメント利益率 | 7.8% | — | 1.0% | 11.0% | 4.1% |
| 自動二輪車等 部品事業 | 売上高 | 1,330 | 1,353 | 1,308 | 1,198 | 1,124 |
| | セグメント利益 | 25 | 64 | 55 | 42 | 11 |
| | セグメント利益率 | 1.8% | 4.7% | 4.2% | 3.5% | 1.0% |

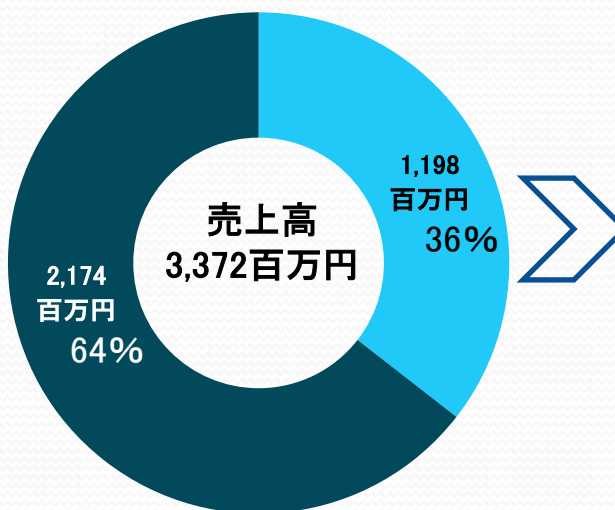
2020年3月期は、自動二輪車等部品事業のベトナムの子会社を含めた売上が減少した一方で、工作機械事業は省力化機器、専用工作機械ともに販売が増加したため売上高が増加したものの利益は減少した

セグメント別売上高の変化

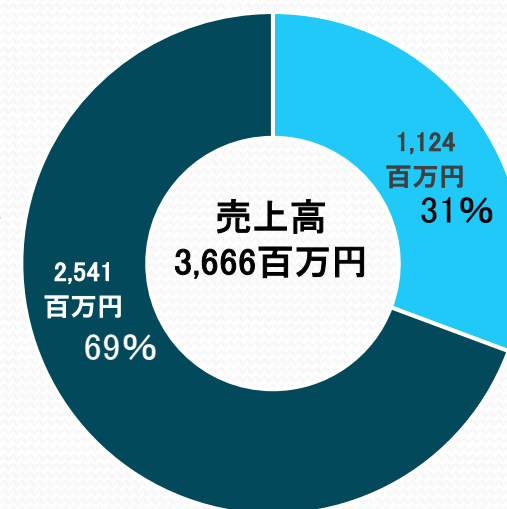
2018年3月期



2019年3月期



2020年3月期



■ 工作機械事業 ■ 自動二輪車等部品事業

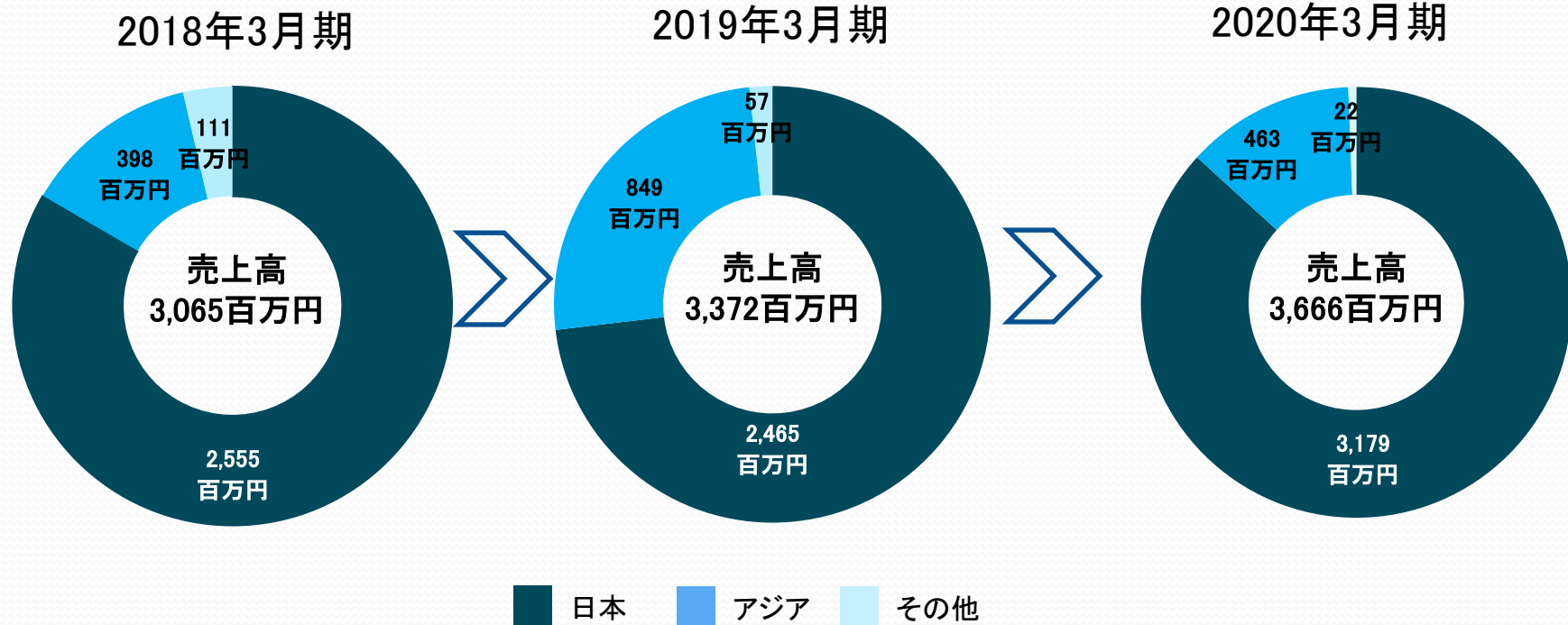
社会的要請とお客様のニーズに対応する、省力化機器・専用工作機械等、工作機械事業の売上が増加し、売上高におけるシェアも拡大～事業構造が変化

地域別別売上高推移

| (百万円・%) | 2016年3月期 | 2017年3月期 | 2018年3月期 | 2019年3月期 | 2020年3月期 |
|---------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 日本 | 2,331 | 1,971 | 2,555 | 2,465 | 3,179 |
| 日本 売上高シェア | 69.9% | 69.3% | 83.3% | 73.1% | 86.7% |
| アジア | 825 | 761 | 398 | 849 | 463 |
| アジア 売上高シェア | 24.7% | 26.8% | 13.0% | 25.2% | 12.7% |
| その他 | 176 | 110 | 111 | 57 | 22 |
| その他 売上高シェア | 5.3% | 3.9% | 3.6% | 1.7% | 0.6% |

2020年3月期は、日本の売上高が増加の一方、海外が減少

地域別売上高の変化



日本の売上高が増加したものの、海外売上高は減少傾向

バランスシート及び指標

(百万円・%・倍)

| 2019年3月 | | 2020年3月 | |
|---------------|------------------|---------------|------------------|
| 流動資産 3,299 | 流動負債 2,431 | 流動資産 2,801 | 流動負債 2,094 |
| 固定資産 1,799 | 固定負債 543 | 固定資産 1,805 | 固定負債 408 |
| | 株主資本 2,096 | | 株主資本 2,160 |
| | その他純資産 27 | | その他純資産 △57 |
| 資産合計 5,099 | 負債純資産合計 5,099 | 資産合計 4,606 | 負債純資産合計 4,606 |

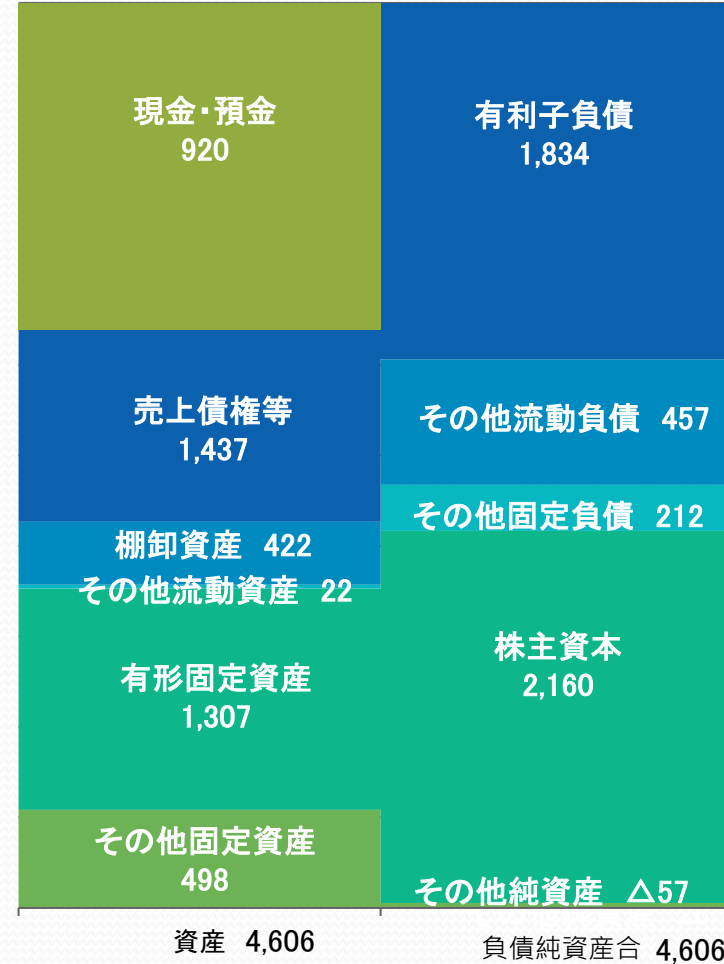
| 2019年3月 | | 2020年3月 | |
|---------|-------|---------|-------|
| 流動比率 | 135% | 流動比率 | 133% |
| ROE | 10.6% | ROE | 4.1% |
| ROA | 4.5% | ROA | 1.8% |
| 自己資本比率 | 41.6% | 自己資本比率 | 45.7% |

バランスシート構造の変化

2019年3月



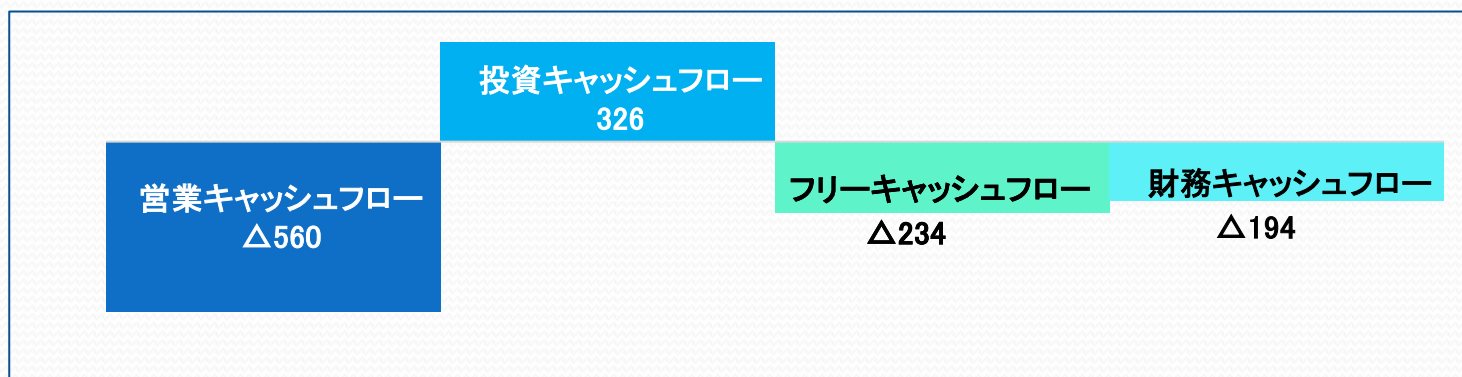
2020年3月期



キャッシュフローの状況

| (百万円・%・倍) | 2019年3月期 | 2020年3月期 |
|-----------------|----------|----------|
| 営業活動によるキャッシュフロー | 604 | △560 |
| 投資活動によるキャッシュフロー | △280 | 326 |
| 財務活動によるキャッシュフロー | 53 | △194 |
| フリーキャッシュフロー | 324 | △234 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 176 | 553 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 553 | 124 |

2020年3月期





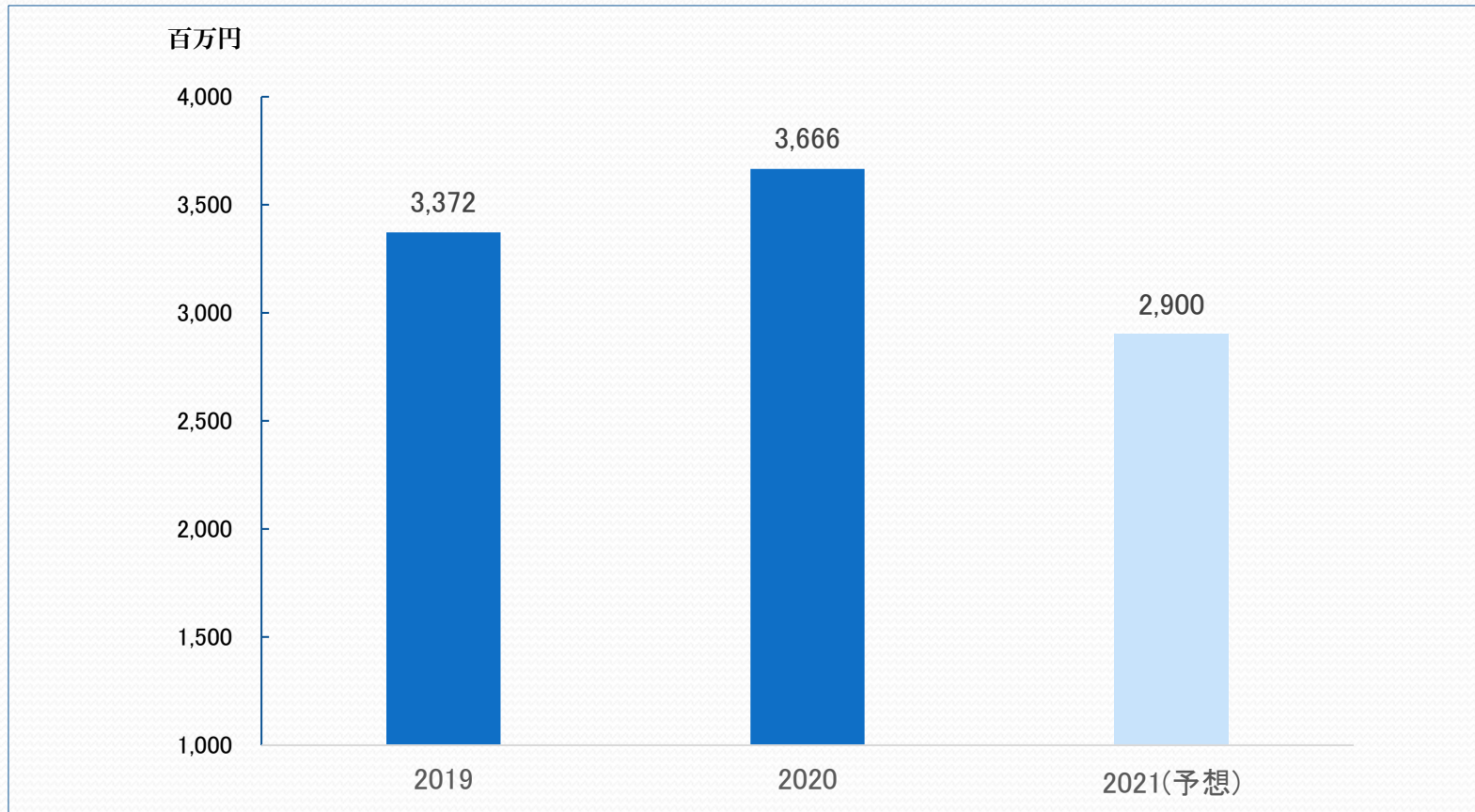
(3) 業績予想・戦略

2020年3月期の業績予想①

| (百万円) | 2019年3月期(実績) | 2020年3月期(実績) | 2021年3月期(予想) | 前期比増減 |
|-------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 売上高 | 3,372 | 3,666 | 2,900 | △20.9% |
| 営業利益 | 297 | 129 | 120 | △7.3% |
| 営業利益率 | 8.8% | 3.5% | 4.1% | 0.6% ポイント |
| 経常利益 | 284 | 126 | 105 | △17.1% |
| 親会社株主に帰属 する純利益 | 218 | 85 | 95 | 11.0% |

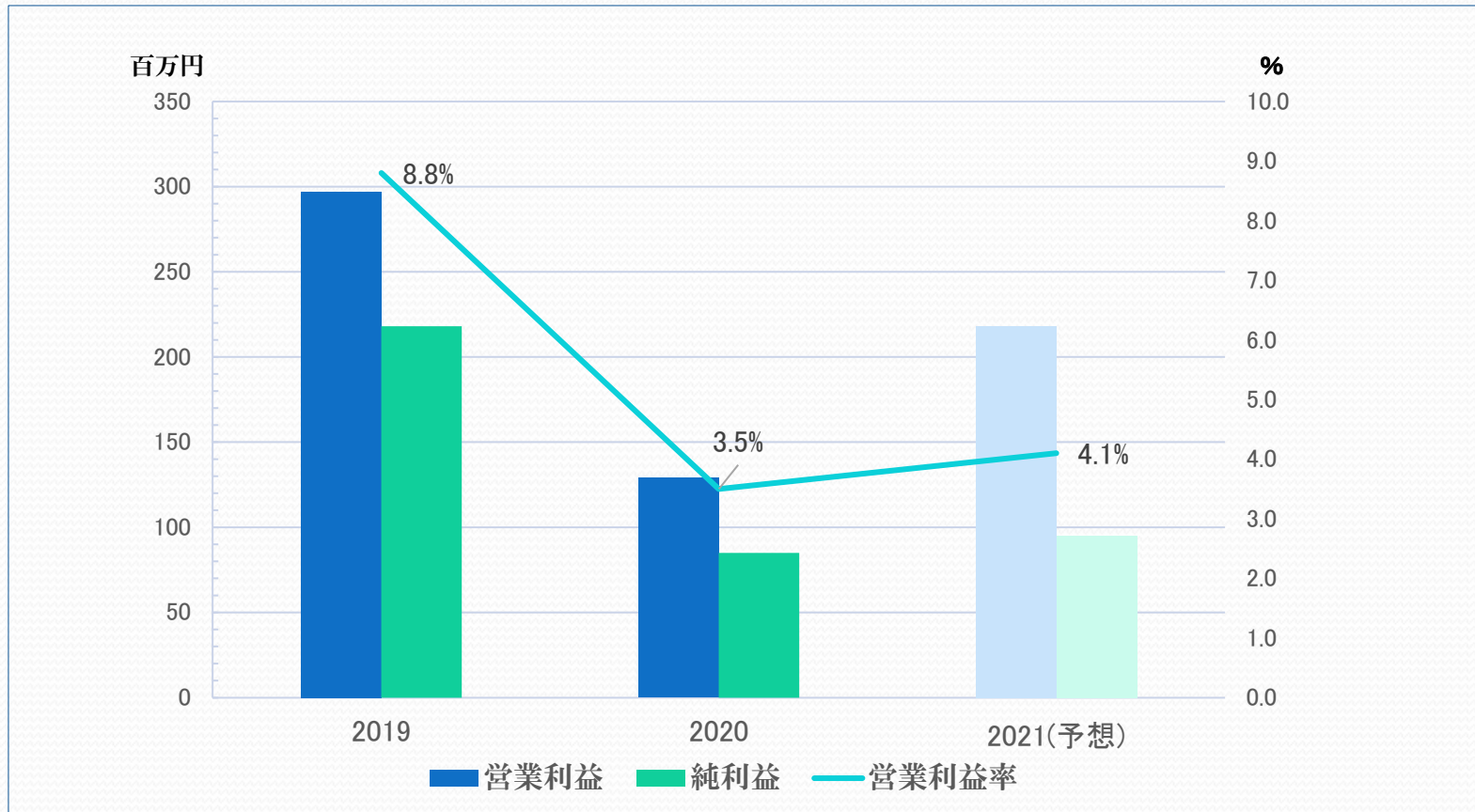
◆実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります

2020年3月期の業績予想(売上高)②



◆次期は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、不透明な部分があります


2020年3月期の業績予想(収益)③



◆次期は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、不透明な部分があります

今後の戦略

| | |
|-----------------|--|
| 全体戦略 | <ul style="list-style-type: none">◆顧客第一主義◆社内設備のさらなる充実◆高付加価値製品の開発◆生産技術立社を目指す |
| 工作機械事業 | <ul style="list-style-type: none">◆500種類以上のユニットと専門技術を駆使した提案型営業の強化◆専用加工機メーカーから精機メーカーへ◆メンテナンスビジネスの強化 |
| 自動二輪車等部品事業 | <ul style="list-style-type: none">◆バイク以外の量産部品販売の強化 |
| グローバル戦略 | <ul style="list-style-type: none">◆ベトナムの現地法人を拠点としたアジア展開の強化 |
| 今後の投資方針 資本政策 | <ul style="list-style-type: none">◆継続的なROE・ROAの改善を目指す◆継続的・安定的な配当を目指す |



(4) 社会的課題に挑む 多角化事業


社会的課題に挑む多角化事業

①マイクロバブル事業～微細な気泡で水質浄化

| | 具体的事業内容 |
|---|---|
| <p>◆マイクロバブル事業とは</p> <p>発生時において気泡径がごく微細な気泡を活用する事業</p> <p>◆活用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質浄化 ・水産養殖 ・部品洗浄 ・飲料水加工 ・医療 など | <p>■マイクロバブル発生装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生装置に高圧ポンプから圧力水を送液することにより気体を自吸、内部液体流速の速度差を利用した「せん断効果」と、特殊壁への「衝突効果」のダブル効果によりマイクロバブルを発生させる装置 ・原料は、現場の水と空気のみ ・特長1: 通常気泡より3倍以上の期待溶解性を有し、短時間で気体溶存濃度を飽和状態にできるため、間欠運転等で利用することによりシステムの省エネ化が可能 特徴2: マイクロバブルの粒径分布は大きく変化するため、液体の性質が変わっても10μm以下の気泡が大量に発生 <p>■マイクロバブル技術の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・潜在的な可能性が注目され、全国の研究機関をはじめ民間企業も積極的に研究に参加。用途に応じて新開発と進化が進行中 <p>■マイクロバブル技術による浜名湖浄化実験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜名湖におけるカキ養殖に適用し、その水域の水質浄化と養殖カキの成長促進を実験 ・養殖カキの成長観察による水質浄化を検証。マイクロバブルを供給したカキは、非供給のカキと比べて、9カ月間で1.5倍の大きさに成長 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>マイクロバブル非供給カキ 2004年3月</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>マイクロバブル供給カキ 2004年3月</p> </div> </div> |

社会的課題に挑む多角化事業

②ハイブリッド発電システム～小型再生可能エネルギー

| | 具体的システム内容 |
|---|--|
| <p>◆ハイブリッド発電システムとは</p> <p>風力発電と太陽光発電を組み合わせた小型発電システム</p> <p>◆活用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園などの照明灯 ・防犯カメラなどを用いた防犯灯 ・災害時などの非常用電源 ・学校など教育施設用教材 ・商用電源のない場所での独立電源 ・環境保全啓発用モニュメント 他 | <p>■羽が短く安全で静かな駆動部にも関わらず強力な発電能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風車の翼(ブレード)をあえて短くし、危険なイメージを払拭 ・小さくてかわいらしい外観からは想像しがたい強力な発電能力 ・風速2m/s以下の微風でも翼の回転を開始し、強風時でも静かな回転音 <p>■金魚の目の点滅が防犯効果を発揮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲が暗くなると支柱上部の金魚の目がフラッシングし、夜間の防犯効果を発揮 <p>■親しみやすい金魚型モニュメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・街頭にも馴染みやすい親しみのあるデザインを目指し、愛嬌のある金魚がモチーフ ・時計・夜間照明システム(オプション)を組み合わせることにより、街のモニュメントとしての利用も可能 <div style="text-align: right;">  </div> |